

中沢かつゆき 通信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自民党鎌倉市連合支部青年局長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

視察と12月議会

9月議会が終わり、10月から11月にかけて視察に出かけました。10月は、総務常任委員会有志による厚木市への防災施設の視察。11月は姉妹都市である萩市への親善訪問、そして総務常任委員会としては和泉市と磐田市に視察に行きました。厚木市は、防災公園「ぼうさいの丘公園」を整備し、災害時の広域の避難場所として約2万人の避難が可能。耐震性貯水槽や備蓄倉庫、非常用トイレなど、災害時に活用できる施設・設備を整備しています。また、県総合防災センターでは、神奈川県における防災の啓発と疑似体験施設が整備されています。

萩市親善訪問では、萩市の議員さんと様々な意見交換ができ、親睦を深めてきました。以前は姉妹都市間の交流が議員だけでなく職員さんとも多くあったようですが、財政的に厳しい昨今、議員交流は任期中に1度、3姉妹都市のどこかに訪問するだけになってしまっています。幕末の志士を輩出した萩市は、市民が選んだ「姉妹都市」です。公式訪問だけでなく、様々な方法で姉妹都市としての親睦を深めていきたいと思ひます。世界遺産登録を目指し、「武士道」を大切にす街。萩市と鎌倉はこれからも姉妹都市として大切にしていきたいと思ひます。

総務常任委員会視察について

総務常任委員会で、和泉市と磐田市に行きました。和泉市では、「市職員の公正な職務の執行に関する条例」つまり、「口利き防止条例」を制定しています。合わせて職員と市長の倫理条例も制定し、職務が公正に執行されるよう定めています。職員には様々な形で「お願い」が市民の皆さんから寄せられます。可能な限り応えていくのが行政ですが、一方無理なことを言う方もいます。和泉市では職員が公正な職務を執行できるよう、市民の方からの要望はすべて記録し、公文書としています。鎌倉市でも、議員が職員の方へお願いに行きますと、記録を取っています。公開対象となる公文書ではありませんが、公正な職の遂行と責任という観点からも記録を取っていくことは大切です。

磐田市では、「市税収納対策アクションプラン」について伺ってきました。磐田市は、ヤマハを中心とする企業城下町。昨今の社会情勢から外国人の就労者が多くなっています。当然就労している外国人も市税を納めなくてはなりません。しかし、その意識が低いため収納率が低く、納税しないままビザの関係で帰国してしまうと追徴は不可能になってしまいます。そこで、意識改革だけでなくコンビニ収納や還付金差押え、外国語による催告書など様々なことを試みています。鎌倉市でも、「税」についてきちんと考えていかななくてはと思ひました。

毎年12月議会前に常任委員会で視察に行きますが、個人としてもいろいろなところに視察に行きます。課題を持って視察に行き、様々な角度から勉強して議会活動に生かしていかななくてはと思ひます。来年は、防災関係の視察を提案してみようと思ひています。

一般質問「震災復興計画について」

防災について定例会で質問してきていますが、12月定例会では、今まで取り上げられることの少なかった「震災復興計画について」質問をしました。防災計画は、文字通り災害を防ぎ被害を最小限に食い止めるための計画です。災害直後の「応急」までが計画の中心です。震災直後は人命救助を最優先させなくてはなりません。同時に「復旧」が始まります。阪神淡路大震災では、電気の復旧が約1週間後、水道が約2か月後、ガスが約3か月後でした。交通では、阪神高速道路が1年8か月かかっています。復旧が始まると、街の将来を考えた「復興計画」を策定していかなければなりません。現在、「震災復興マニュアル」を策定している自治体がほとんどなく、大きな課題と考え質問をしました。関東大震災のとき、内務大臣後藤新平は「復旧」ではなく「帝都復興計画」を策定し、帝都復興院を創設しました。規模は縮小されましたが、内堀通り、靖国通り、明治通り、昭和通はこの計画に沿って整備された道路です。この計画はその後の戦災復興でも生かされ、名古屋の「100m道路」や仙台の「青葉通り」などにも考えが引き継がれています。中越地震では、山古志村や震源地である川口町の一部地区で集団移転を行っています。鎌倉市では、都市整備計画「都市マスタープラン」を策定し、将来の鎌倉の街づくりを企画しています。震災復興でも当然この「都市マスタープラン」にリンクした復興計画が策定されていくはずですが、しかし、「震災復興」についての計画は、まだこれから始めていくことですので、今後の検討課題となっています。特に、世界遺産登録がなされたとき、震災復興計画と都市マスタープラン、世界遺産登録とのリンクが難しくなってくるのが予想されます。喫緊の課題でありながら、未だ多くの点でこれからの課題となっている「震災復興」ですので、これからも質問を行っていきたいと思います。

東京都と練馬区の震災復興計画

練馬区では「練馬区震災復興の推進に関する条例」を制定し、「震災復興マニュアル」を策定しています。これは全国でも少ない震災復興条例です。地震被害の多くの記録のある鎌倉でも、震災復興はしっかりと考えていかなければなりません。そのために一つとして、震災復興条例の検討をお願いしました。

東京都では、「震災復興グランドデザイン」を策定し、震災2週間後には「震災復興基本方針」を策定するようにしています。そして、6か月以内に「復興基本計画」を策定して事業計画を発足させるようにしています。震災復興は10年以上の計画といわれます。これを震災直後に基本計画を策定していくことは困難を極めると思います。しかし、だからこそ平時にきちんとした方針を持っていかなくてはなりません。鎌倉市でのグランドデザインを策定をお願いしました。

中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学理工学部情報科学科卒業
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所
客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ理事
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
鎌倉市テコンドー協会顧問
県議会議員中村省司秘書
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)

二階堂在住

事務局：Tel 0467-61-0305

Fax 0467-61-0315

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？



* 中沢は温泉コンサルタントでもあります *

萩温泉：鎌倉市の姉妹都市である萩市は、実は温泉街でもあります。萩温泉郷は8つの温泉からなっていて、泉質は単純泉とナトリウム-塩化物泉の温泉です。適応症は、海に近い温泉の特徴である「傷」にいい温泉です。またよく温まる温泉でもあり、日本海の夕景を眺めながらゆったり浸かるには本当にいい温泉です。数年前、温泉の仕事で訪れたことがあります。夕景に温泉があったら本当にいいですね、と話したことを思い出します。城下町としての面影を歩き、自然を満喫して海の幸を食しながらの温泉郷めぐりも、また旅の楽しみでもあります。幕末を駆け抜けていた志士たちの足跡が至る所にある萩が、一方では今の人々をいやす場でもある。不思議な思いに駆られます。明治政府の中核を担った人材を多く輩出した萩ですが、多くの自然と歴史の息吹、温泉を今に残してくれました。また訪れたいと思います。

<http://www.hagi.ne.jp/>

<http://www.hagishi.com/>